

現状の検体採取等体制について

<設置状況> ※8月31日時点

○受診調整機能付地域外来・検査センター

・16か所設置⇒9月中に計26か所設置見込み

※大阪府設置分：16か所 政令・中核市設置分：10か所

○検体採取特化型地域外来・検査センター

・18か所設置⇒9月中に計20か所設置見込み

※大阪府設置分：11か所 政令・中核市設置分：9か所

○帰国者・接触者外来

・88か所設置

※大阪府設置分：31か所 政令・中核市設置分：57か所

○保険適用による検査実施医療機関

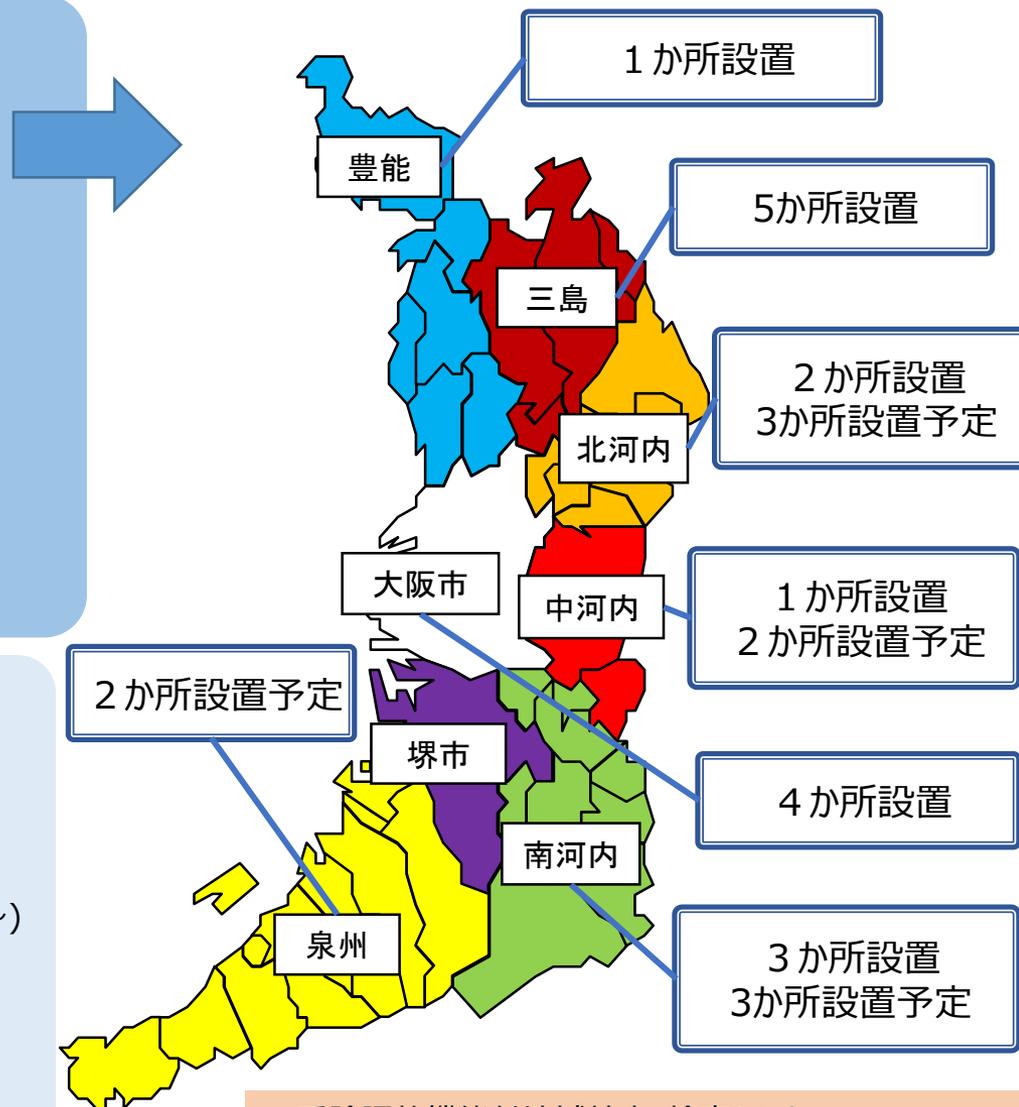
・228か所（帰国者・接触者外来等と重複あり）

※大阪府管内：97か所 政令・中核市管内：131か所

<その他の取組み>

- ・濃厚接触フォローアップセンターにおいて、無症状者に対し、容器郵送による自宅検体採取を実施
※8/17～開始(1日最大100件程度)
- ・接触確認アプリCOCOAによる陽性者との接触通知を受けた方に対する容器郵送による自宅検体採取を開始予定(9月上旬～)
- ・福祉施設等でのクラスター発生時に速やかに検査が行えるよう、抗原迅速診断キットを保健所等に備蓄予定(約2000人分)
- ・医療機関等への検査機器整備支援(補助)
第一次交付決定 63か所 約5.7億円
第二次交付決定 130か所 約13.4億円(予定)

⇒今後、地域の医療機関における検体採取体制の拡充を検討



※受診調整機能付地域外来・検査センターの設置及び設置予定箇所のみ記載
※上記のほか、各保健所が継続して設置推進中